会　　議　　録

平成２２年度第５回 社会教育委員の会議	日 時	平成２２年１０月２０日（水） 午前９時30分～11時30分	場 所	小金井市役所第二庁舎 ８階８０１会議室	
事務局	小金井市教育委員会生涯学習課				
出席者	委　員	伊藤、浦野、倉持、樹、中村、本川、吉池　各委員 (欠席委員)小林、田尻、本多　各委員			
	その他	渡辺生涯学習部長、尾﨑生涯学習課長、宮腰スポーツ振興担当課長、大関公民館長			
	事務局	林生涯学習係主事			
傍聴の可否	◎可　・　一部不可　・　不可	傍聴者数	０人		

次　　第

１．協議事項
（１）第５ブロック研修会について
（２）小委員会について
（３）「青少年のための科学の祭典」について
（４）平成２２年３回定例会報告
（５）図書館長の事務取扱について
（６）小金井市立図書館別館使用要綱の一部を改正する要綱について
（７）その他
２．報告事項
（１）「生涯学習のまちづくり」のためのネットワークづくりについて
（２）その他

傍聴不可・一部不可の場合の理由	

１．協議事項
（１）第５ブロック研修会について
(本川議長)
　第５回の会議を始める。第５ブロック研修会について報告する。武蔵野、小金井、調布の事例発表があった。小金井は科学の祭典の実行委員会の事務局長に話をしてもらい、中学生ボランティア・子どもたちの声を伝えてもらった。

（２）小委員会について
(倉持委員)
　後半の協議事項の中でも、委員各位の意見を聞く場を持ちたい。社会教育委員の会議でも何度か議論になったと思うが、今後の方向性が私たち小委員会の中でも見えない部分がある。まずは社会教育委員からイメージを出し合って、そこから方向性を見

いだして行ったほうがいいのではないかという話になった。今日の会議で報告事項が終わった後、貫井北町地域センターのことなども念頭に置きつつ、それだけに留まらず、公民館、あるいはそれ以外の社会教育生涯学習をネットワークする場、あるいは機能はどうあったらいいと思うかについて、イメージ・アイデアを出して欲しい。現段階では実現の可能性を考えるより、これがあったらいい、この機能があったら便利ではないか、あるいは、膨らみや可能性があるのではないかという部分を、少し枠を外して自由に出しあう形で、たくさん出していただきたい。

（本川議長）

小委員会の中で議論した結果について、委員各位から忌憚のない意見を聞いたらどうかということである。後ほど協議事項で時間を取る。

（３）「青少年のための科学の祭典」について

（尾崎生涯学習課長）

配布資料をご覧いただきたい。「２０１０青少年のための科学の祭典東京大会 in 小金井」について報告する。平成２２年９月１２日（日）午前９時半から開会した。初めての試みとして、開会式で「人の息で車を持ち上げよう」を入れ、見事に成功し、開会式も大変盛り上がった。当日も天候に恵まれ、８，１３０人の来場者を数えた。大盛況で、大きな事故もなく無事終了することができた。来場者数は過去３年間より少し下回ったけれども、出展ブース数は過去最大で１２４ブース、どのブースも大変な賑わいで、来た方全ての方に満足いただけるイベントとなった。来場者数が伸び悩んだ原因は、近隣のお祭り等のイベントが重なったことが考えられる。中学生ボランティアは１３６名の参加があった。それぞれのブースで大変活躍したとのことである。大会終了後の反省会においても、中学生ボランティアに対する評価は大変高く、各ブースの関係者から、中学生ボランティアはよくやってくれたという感想いただいた。過去３年と比較しても、中学生ボランティアの参加は毎年充実してきている状況である。

（本川議長）

それではブースについて伊藤委員からお願いする。

（伊藤副議長）

科学の祭典は事前にミニシンポが土曜日に行われ、今年は向井教育長から話があった。翌日の反省会では長谷川先生から話があり、科学の祭典は小金井が中心になって東京都だけではなく、日本全国に発信できるような大会になるのではないかと、大きな夢を持った話をしていた。ブースでは子どもたちもとても喜んでいて、来年はお客になってくると帰っていったボランティアの方もおった。やってよかったという感想をもっておる。

（本川議長）

伊藤委員には１年かけて準備をしてもらった。ありがとう。続いては平成２２年３

回定例会報告である。

（４）平成２２年３回定例会報告

（渡辺生涯学習部長）

資料①をご覧いただきたい。第３回定例会で出された一般質問である。３名から質問があった。野見山議員から、「今でもできる！図書館を情報発信の拠点に」である。村山秀樹議員からは、「玉川上水・小金井桜整備活用計画について」である。渡辺ふき子議員からは「図書館返却ボックスの落書き等が放置されている」と指摘があった。以上、３名の方から質問があった。

（５）図書館長の事務取扱について

（渡辺生涯学習部長）

図書館長が病気休職のため、９月７日付で生涯学習部長が図書館長事務取扱を兼任することになった。以上である。

（６）小金井市立図書館別館使用要綱の一部を改正する要綱について

（渡辺生涯学習部長）

資料をご覧いただきたい。図書館別館について、利用団体の枠を広げるため、要綱の一部改正をした。次のページの新旧対照表をご覧いただきたい。第２条の（２）、旧要綱では、「図書館活動（文庫、読書会、おはなし会、講演会、講習会等）」に関係する団体になっていたが、新しい要綱では、市内における「社会教育活動」に関係する団体と、枠を広げている。第４条は時間の拡大を図っている。今まで午前１０時から午後５時までだったが、水曜日と木曜日は、終わりの時間を午後５時から午後８時まで延長した。以上である。

（倉持委員）

第２条の（２）社会教育活動に関係する団体とあるが、社会教育団体という判断に基準はあるか。

（渡辺生涯学習部長）

現在、社会教育団体というのは、社会教育関係団体として登録が１つ。公民館で施設予約する際の団体登録も社会教育団体である。体育関係もあるが、そういったことまで枠を広げるという考え方である。今までは図書活動に限られていたが、少し広げるということで、社会教育に関係する活動団体は網羅する考え方である。

（本川議長）

広報は、どのようにされているのか。

（渡辺生涯学習部長）

１０月１５日の市報に掲載している。

（7）その他

（宮腰スポーツ担当課長）

１０月１１日（祝）体育の日に実施したスポーツレクリエーションの集い及び体育施設無料開放について報告させていただく。昨年度に引き続き、総合体育館、器械体育室において体育協会によるキッズテニスを、小体育室、柔道場、剣道場で黄金井倶楽部のスポーツフェスティバルとして、スポーツ、輪投げ、ストラックアウト（的当てである）、スポーツチャンバラ、ファミリー体操を行った。参加人数は、キッズテニスは１４６人。スポーツフェスティバルには２５６人、合計４００人の参加があった。体育施設の無料開放についてだが、当日の利用者は、総合体育館、栗山公園運動センター、市テニスコート場の各施設で実施し、合計で１，０１６人であった。

（尾崎生涯学習課長）

資料にある第２期小金井市史編さん委員名簿をご覧いただきたい。第１期委員が平成２２年８月１９日付で任期満了になったので、第２期委員を報告する。第２期市史編さん委員の任期は、平成２２年８月２０日から平成２５年８月１９日までの３年間となっておる。１号委員、学識経験者にはご覧の３名の方に。２号委員、一般市民には３名の方にそれぞれ委嘱された。井上恵美子委員は、市民委員で、女性史に詳しい方である。小金井市の市史編さん委員としては、初めての女性委員を委嘱したところである。３号委員、市職員であるが、副市長及び教育長を任命している。委員会の委員長には吉原健一郎成城大学名誉教授、副委員長には小野武敏委員がそれぞれ選任されたので報告する。

（浦野委員）

図書館協議会のフォーラムについて報告させていただく。１０月３日図書館の集会室で行われた。１時半から４時４５分まで、参加者数は６４名、予想以上にたくさんの方がきて、慌てて椅子を用意したほどであった。第１部は図書館協議会の委員を務められている東京学芸大学、山口源治郎先生の講演、「市民と図書館、これからの課題」で講演いただいた。第２部はシンポジウムで、図書館協議会の答申の内容と趣旨を語り合うということで、市民のパネリストが２人、司会を協議会のメンバーで、３人でパネルディスカッションをした。後半、短い時間であったけれども、参加者の方にも意見をいただいた。

（中村委員）

１０月１３日水曜日に貫井北町地域センター建設市民検討委員会があり、部屋の配置、平面計画について話し合った。AⅡ案とR案と２案あり、AⅡ案は、前々回９月にたたき台として出したA、B、C案の発展系で、それを統合して考えた案がAⅡ案である。R案のRは、レクリエーションのRをとっており、レクリエーション室を１

つの目玉にして、その頭文字をとってＲ案ということである。Ｒ案では、レクリエーション室を設け、部屋の高さがかなりとってあり、多目的に使えるレクリエーション室が目玉である。そのレクリエーション室の下に駐車場のスペースも確保されておる。次回の１１月に、ＡⅡ案とＲ案が統合された、また発展形として１つに絞り込んだ案を建築設計事務所から提示があるとのことである。

２．協議事項

（1）都市「生涯学習のまちづくり」のためのネットワークづくりについて

（本川議長）

先ほど倉持委員から説明があった件についてである。

（本川議長）

まずは、ぱっと書いていただき１５分程度で意見交換をしたい。

（渡辺生涯学習部長）

参考資料として、１９９８年、１２年前であるが生涯学習推進懇談会を設けて、御意見をいただいている。もし参考になるのであれば読んでみて欲しい。

（本川議長）

どうしてこれが埋没してしまっているのか。

（渡辺生涯学習部長）

内容が非常に大規模であったためである。

（吉池委員）

小金井は予算上、非常に難しい部分があるが、逆に小金井方式的なネットワーク、生涯学習ネットワークは、そういう拠点の分散型、図書館であったり公民館であったり別な施設とか、色々な施設をネットワークとしてセッティングできる組織をどうつくるかについて、新しいものを考えるのはおもしろいと思う。

（倉持委員）

例えば各委員はそれぞれの立場や所属団体の活動があると思うが、そういう視点でこういうのがあったほうがいいというレベルでいいのではないかと思う。タイトルを立てると、大げさに感じるが、平たく言えば、小金井の社会教育の生涯学習の支援でどういうのがあったらいいのかという話である。ゆくゆくはそれをネットワークという形で、ハード面であったり、システムだったり、人だったり、あるいはサービスだったりの部分である。小委員会に出ていたのは、例えば団塊の世代で退職された方で、これから学びたいという方が、現状だとどこに聞きに言っていいかわからない。引っ越して来られた子育て中のお母さんが、ちょっと相談したい、自分の時間を持ちたいと思ったときに、気軽に入れて情報が得られるところがあったらいいということを話した。逆に既に活動している団体からみて、情報交換の場があったらいいとか、新規募集でこういうのがあったらいいとか、ボランティアを募集するのにこういう窓口があったらいいとか。自由に使える施設があったらいい、相談員さんがいたらいい、そ

ういう意見を積み上げるのが先である。小委員会は本会議よりもアンフォーマルなので、あっち行ったりこっちに行ったりしながら好き勝手、私は好き勝手話しをするが、なかなか社会教育委員の会議だと、フォーマルな雰囲気が漂うので、時間も限られているので行ったり来たりはなかなかできない分を紙に書き出すことができればというのが趣旨である。

（本川議長）

私が２５期で何か取り組みたいと思っていたのは、今は生涯学習に関する計画も何もなく、何もないと結局、行政として話題にも上らないし、どこで引っかかるかというのも、何もなければもちろん引っかかるわけもないので、そこのところの種をつくらないといけないのかなと思ったのが１つのきっかけではあった。では、市民が少し頑張って、社会教育に携わるというものの、それはハードな部分でも、ソフトの部分でもいいが、種まきをしておかなければどこにも引っかからないし、この後何とか計画の中に盛り込まれるかもしれない可能性があるのだ。だから、可能性を少し追求しながら、皆さんのご意見を聞いてみたいと。今期どうのこうのということではないが、ともかく種はつくっておきたいなというところだ。

（倉持委員）

種という意味で言ったら、地域教育会議。あれもある意味では種である。そういうのは結局、どれも現実に向かって動いていない。ある意味では受けとめられていない。

（本川議長）

三者懇があるのだから、三者懇を膨らませた形で、例えばだが、ネットワークの１つとしてＰ連だとか、文化協会だとか、体協とかが、情報交換ということで顔合わせをするようなことも可能ではないかと思う。

（倉持委員）

例えば拠点であれば、何故、拠点が必要なのか、どんな機能が必要なのかという中身を積み重ねていく必要があると思う。例えば、同じ日に似たようなイベントをやってしまうこの状況、それは市民からしてみたら、もったいないと単純に思う。関心のある人は、両方行けたら行きたい、あるいはそれぞれ似たようなことをやっているのだったら、お互いに人材交流するとか、情報共有できたほうが市民にとってはありがたい。三者懇談会も、それぞれが持っている課題や状況というのが共有できて、共通の目標がないと、ただ一緒に集まって情報交換するだと、多分それぞれ集まらないと思う。各団体も忙しいし、多分会議がいっぱいあるので、集まって情報交換というだけでは集まらないので、何かそこに必然性やミッションが必要である。今回の図書館協議会のフォーラムをやったのは、ものすごく大きな一歩だと思うが、そういうふうに実際に動くとなると、おそらく図書館協議会も、ただの議論をするだけではなく、共同して一緒にやろうというふうになると思う。そういう具体的な部分も合わせて出していったほうが、ゆくゆくは拠点をというふうに言うにしても、イメージというか、根拠が違うと思うのだが。

（吉池委員）
自主的な活動は市民がやっていくわけだが、その場合に行政とは何だろうかと考えると、行政とは予算である。予算と業務内容、規則づくり、ルールづくりである。基本的には、市民のお金を集めて、それをどういうふうに、市民全体への分配とルールづくり。自主的に市民がやる活動とここをどうつなげるのかということが、今度は行政の人材である。そこが崩れている場合は、市民が勝手に動くのである。行政は、市民が勝手に動くことを望んでいるかというと、今の風潮では、いろんなことをやってもらいたいが、うちのルールから外れたら許さないよというのを持っている。ここのところの整理を、共同体としての整理ができない限り、どんなことをしても絶対にできない。例えば今、議長がおっしゃっていた拠点づくりの場所だが、その場所の確保は、一体だれが決めるのだろうか。具体的に決定権を持っている方とお金というのは、まず基本は予算で、議会で承認だから、積み重ねの中に、行政の方々が積み重ねるが、それを財政と話し合って、それが市長の名のもとに、議会で承認するわけである。そこのところで決められた流れがあれば、拠点はつくれるのだ。そのために論ずるという、我々の委員としての分野というのは当然あろうかと思う。それこそ自主的に活動をなさっている多くの市民の方々の動きを行政が、その動きのことを聞かなければいけないというほど大きくなるまで待つのか、やはり行政が育てて、ともに生きよう、市民の幸せのためにという視点に立ってくれるかと。そのあたりのことというのは、行政で承認されるのはお金なのである。行政の場合は、財源がそこに来ないということは、相手にしていないということを決定的に意味するのだ。では、それをもらうためには何をしたらいいかといったら、決定権を持った方に働きかけるしかない。委員が働きかける形をとるか、委員の方がいろいろな自主活動をなさっている方々の声をいっぱい持って、極端に言うと署名運動、ここでやる世界ではないが、ある種の直接請願的な署名運動というのが、決定的に市民運動の中であるわけである。それは公的に認められている。そういうものに動くか、一生懸命やる市民の方がいたときに、参考になるものをつくる場所なのかという、社会教育委員とは一体何が仕事なのだろうというと、行政から言われたことを論ずるを勉強して、いつかそういう方々が参考にするべきものを残してあげるということをきちんと決め切るか。というのは、そこがないと、何かを書くにも、何を書いたらいいのかと、自分らはそこで何か意見をまとめようというのがあれば話しやすいと思うのだが。全体像的には非常に難しい状況だろうなと思うが、社会教育委員さんが、決定権を持っている方のところに場所をつくってよと言いに行くというのもおかしいだろうし。
（本川議長）
確かに、簡単なことではないが、みんなが必要だと思っているのは事実だと思う。あったほうがいいと思っている。例えば介護福祉課でまなびあい出前講座を頼もうと思った時に介護福祉課へ行けばいいというのは生涯学習課で聞いた。そして介護福祉課で相談し、書類に記入した。しかし、申込は再度、生涯学習課へ行ってくれという

ことになったわけである。あっちへ行って、こっちへ行って、実際を聞いて、何故ここで申し込めないのかというのがとても不思議だった。だから、そういうことはいっぱいあるのではないかと感じた。とりあえずのところは、何か思っていることを出していただくのがいいのではないかと。

（吉池委員）

例えば黄金井倶楽部も体育協会も同じ日にイベントをしていて両方が一生懸命に、それを１つの日に同じ体育館でやるのだったら、両者は話し合いが必要だ、その当日の前に。その話し合いが１回もないのだ。主催は小金井市だから、その話し合いはスポーツ振興担当が場をつくるのか、委託を受けた体育協会と黄金井倶楽部さんが自主的にするのか、それすら決まりがない。だから開会式も、体協はやって、市長があいさつをするが、黄金井倶楽部は、より多くの予算を持ちながら、スタイルが違うからと開会式はしない。やっている人たちにはそれぞれの理由があって、やり方が違うから、黄金井倶楽部さんは開会式にはなかなか集まりづらいやり方をしている。それはそれで、すばらしいやり方なのだが。でも、ここの事前の話し合いというのを両者は１回もしたことがないのだ。それは、我々が自分たちの収益活動、あるいは委託を受けた人間が自主的にその準備をするのか、そこは行政の役割とは何なのだろうかと。そういう部分というのは、行政もそれなりに責任があるのかなと思うところもあるが、では、それがない場合、我々が勝手に、委託を受けた団体が勝手に動いていって、行政を無視して。それもお金をもらい、委託を受けて、仕様書があるわけだから。だから、事業展開でも、なかなか現在は難しいところがある。その辺では、美しい言葉と、現実の乖離をどう埋めるかということが一番大事で、相当理論的なのはもう皆さんと古いプランを過去からつくり上げているので、それで行政もお金がないと思っている市民もいるし、でもその状況の中で、それなりにベターなものをというにはどうしたらいいかというときには、小金井の場合はどこか基本が欠けているのかなと。そこの欠けているところをうまくやればすばらしいものが、小金井の方は皆さん資質を持っていらっしゃるから、非常にハイレベルなので、行政の人もそういう方向性を許可してもらえれば、行政の人も困っていると思う。出しゃばってはいけないといって。その辺の方針を教育委員会なり、市長、副市長、教育長の理事者が出してくれれば、所信表明には出ているのだが、所信表明を市長が言っても、なかなかそのとおりにはならない。

（本川議長）

言いにくい部分も、こちらから言っていくと。出しにくい部分も、こちらから言っていくというのも１つの方法ではないかとは思う。そうすると、それに対する答えは絶対あるはずだが。

（吉池委員）

あまりここを惑わせるようなことを言った後で批判的に言いたくないが、そこの部分を、自分だってできなかった部分もあるし、非常に難しい部分だから、そういう…

…、やはりあるはずだ。うん、そうか、少し出っ張ってもいいのだなと、社会教育委員の方は、ある部分出っ張ることを行政が、予算を分配するルールづくりだけではなく、もう少しこうしたらどうかということを、それぞれの場面では出していいのかなと思っていただければ、行政の方が少し動いてくれれば。

（本川議長）

それは大いに感じている。１つの例であるが、科学の祭典のことだが、あれは１団体が始めたことがだんだん広がっていった。今年は各団体がほんとうに変わってきたと聞いている。何が変わってきたのかというと、今までは事務局が考えて出していたことを、もちろんそれを踏まえての話なのだが、その声についてこうしたらどうだろう、ああしたらどうだろう、こういうふうに考えたらどうだろうというようなことを出してくれるようになってきたとおっしゃっている。行政も大変に協力してくださっている。縦割りの制度に不都合な部分も感じている。同じようなところがなぜ繋がらないのかと思うこともたくさんあるし、今、吉池委員もおっしゃった、同じような団体が同じようなことを、中身はちょっと違っても、同じような目標とか、同じ時期に、同じところでやるというようなことに調整ができないのかということを。その団体でやればいいじゃないと言えば、それも１つなのだが、もし必要であれば、コーディネートするようなところがあったらいいのかもしれないしというようなことである。そういうふうに感じたことを言っていただいているうちに、何か見えてくるのではないかと。そういうお役目が社会教育委員の会議にはあるのではないかと考えでいるところだ。実際に自分がこれに何を書けるかというと、いやあ、どうしようかなというようなことである。

（倉持委員）

どんどん紙を出していいのか。

（本川議長）

どんどん聞きながら書いていただければ。思いついたことで本当にいいと思う。だから、大きなことでもいいし、小さなことでもいいと思う。

（樹委員）

１２年前の段階で、生涯学習センターの構想は書いてあるのですね。

（渡辺生涯学習部長）

第３次の基本構想には入っていた。

（本川議長）

そこがなくなってしまったということは、結局、話題にも上らないということである。議題には上らない。

（渡辺生涯学習部長）

生涯学習センターの機能だとか、目的だとか、そういったものがはっきりとうたい出せれば、それは載せることが可能である。第４次基本構想を今つくっているが、これは前期の計画しか出しておらず、後期は５年後に出るわけである。そこには載せる

ことは可能である。前も載っていたが何も進んでいない、載せればいいかというと、そうではないと思う。載せて実現するにはどうやるかということを考えないといけない。

そうなってくると、では、何をやるのかと。１つには、公民館というのは、北町の地域センターで言うと、これで地域に４つの地域センターができて、本館があるということで、５つの体制が固まる。これはほかの市に比べても、そんなに見劣りする施設ではなくなるわけだ。事業自体も数十年の歴史があって、全国的にももう認められている。過去には、文部大臣からの表彰を２回受けている数少ない市だと思う。そういった実績もある。ということで、公民館は確たる部分があるわけだ。それから、集会施設というのもまたたくさんある。町ごとにそれこそたくさん。それと生涯学習センターというものができたときに、今言った３つの施設は、どういうふうな切り分けだとか、有機的なつながりだとか、どういう目的がそれぞれあるのかだとかというところをはっきり書いてある必要がある。

（倉持委員）

書いてあるだけだと厳しいというのはどういう意味か。

（渡辺生涯学習部長）

基本構想に書かれるのは数行で終わりでいいのだが、その下のものがはっきりしていなければならないということである。生涯学習センターというのは、何を、どんなことを、どんな目的で、誰がというのは何もないのである。

（伊藤副議長）

要するに、５Ｗ２Ｈをきっちり固めればいいわけだ、計画だから。

（渡辺生涯学習部長）

必要だというものがはっきり認識できて、市民の方の同意が得られるというものがあれば、当然載せるべきものなのだから、それは載せると。どうしてもこういうものにしようと思うと、理想的な言葉と、理想論が主になってしまって、では、実際にはどうやればいいのだというところが読み取れないものが往々にしてある。具体化するためにはどうするのだというもののほうに突っ込んだほうが、狭い話になっておもしろくないと思われる部分もあるが現実味がある。提言の中でも実現されているものもある。放課後の子どもの居場所づくりというのが、国や都の後押しもあり、今の「放課後子どもプラン」、「放課後子ども教室」という形になって、今も続いているわけである。この中で盛んにうたわれているネットワークというのは情報ネットワーク、これはぜひやるべきではないかということだが、今はインターネットがあるから、あえて自前でそんなものをつくらなくても、インターネットを利用すれば同じことが十分できるし、自前でつくるよりよっぽど効果があるという時代にもなってきているわけである。１２年もたつと、大分中身も変わってきている。市の財政が変わった。平成１０年というのは財政がどん底の時代である。おそらく何もできないような時代に、これが出されている。そういった時代と今は、財政は大分好転してきている。今回、

年次構想の中で前期計画の中期財政計画が出ている。今後５年間の財政計画なのだが、その額を見ると、過去５年間の社会教育に振り分けられる事業予算の数十倍の予算がつぎ込まれる予定である。これは施設の老朽化もあるが、かなり変わってきたと思う。

（本川議長）

その時代時代に合ったような、要望とか要求とか、それから必要性とかいうのはあると思う。今のまとめも踏まえて、意見を書いて欲しい。

（各自で検討中）

（本川議長）

では、ここで区切って。では、樹さんのほうから発表していただけるか。

（樹委員）

私は団体で活動しているので、そういう観点から。今年はセミナー等も開催をしたのだが、そういういろいろなイベントを開催したりとか、セミナーを開催したいと考えたときに、講師の情報が得られることとか、それからチラシをつくったりとかするので、そういうときにコピーだと結構お金がかさんだりとかもするので、有料でもいいので印刷機が使えるということや、また、イベントを決めたときに公民館のような施設を使うとそこで告知とかもできるのかもしれないが、ほかの施設だとなかなか難しいので、やはり告知ができる場所、また逆に、何か私たちが参加したいと思ったときに、そこに行けばいろいろな情報が得られるというような場所があるといいと思った。

また、会議とか打ち合わせをするのに、どうしてもファミレスとか、そういう感じになったり、個人のお宅を使わせていただいたりということがあるのだが、三鷹の施設を見学に伺ったときも、小さな会議ができたりとか打ち合わせができたり、またその団体がやったものに対する展示をする場所とか、発表するようなスペースがあるといいと思った。

公民館という観点で、これは転居してきた者として、この間も小委員会のときに話をしたのだが、自分の地域の公民館に絶対行かなければいけないのかという疑問がすごくあって、市報とかを見ていると、あの公民館で少しすてきなことがありそうだなと思うが、でも自分の家からはすごく遠いというときに、逆によその地域の公民館の情報を得るのも、せいぜい市報を見るぐらいで、なかなか細かく、どんなことをやっているのかというのもわからないし、行っていいのかという部分ではとても敷居が高いので、行っていいのであれば、その場所に行くと市内の全部の公民館のいろいろな細かいこともわかって、これに参加してみたいという、そういう情報が開かれていくともう少し行きやすい。とても閉じられた感じがして、少し行きにくいという思いで公民館を見ていることが多かったので、何かそういうのもあったらいいと思った。

（中村委員）
私は今までの吉池委員のお話も参考にしながら、協働ではないが、やはり市民が出る場所に、行政も参画していただいた中で、１つの大きな運動にならないといけないと思う。そこで社会教育関連団体代表者会議の開催、そこに行政も参画いただいてやっていくのが１つじゃないかなと思った。
それから、社会教育センターの具体的機能を明確化する。特に予算的な裏づけが必要だと思うので、特に大義名分をはっきりすることが大事ではないかと、とりあえず今、私はこの２点ぐらいを考えた。
（吉池委員）
重複するところが出ると思うが。まず、短期的と中期的に考えた場合、施設をつくるのはなかなか大変だと、少し先になりそうだということなので、現状に近いところで、現実的に小金井は既存施設、公民館とか集会施設がそれなりに地域に充実して存在するということなので、既存施設の有効活用によるネットワークの充実を、そこを使って目指す方法はないのかと、それを小金井方式と名づければ、既存のそういう地域施設なんかを利用するとてもよいネットワークの充実を目指す小金井方式の確立。それと今度は、中期的にはセンター施設の建設を目指すために、目指す市民会議の設置と、それを明確に、それだけのために先頭に立って動く。
あとは行政の役割について、行政自身も私どもも、何しろ出過ぎてもいけない、引っ込み過ぎてもいけないと悩むところであるので、まずは行政の人間はだれがその本部長につくのか、その役割の具体的・事例的なマニュアル、このぐらいの、こういうときは出る、こういうときは引っ込むというのを共有する。行政の人間と市民の団体等、すべてが、ここは行政の方に出ていただく場所だというのを、行政の方自身が迷わなくていいように、マニュアル的な判断を共有するというのを、３点、思いついたところである。
（伊藤副議長）
私は自分自身の考えを整理してみたくて書いたのだが、とにかく生涯学習というのが公民館の活動と基本的に違うのは何だろうと考えてみた。将来、生涯学習の中に公民館活動や図書館活動が当然包含されるものだと考えている。だから、組織的にどうとかこうとかではなくて、生涯学習センターというのが一番上にあって、それなりの今度は分科会方式ではないが、体協やスポーツ関係だとか、そういう公民館活動だとか、図書館活動とか、いろいろなそういう分野の活動があっていいと思う。そういうところの取りまとめというか、全体の情報を共有化して、一本化、それを第三者に対して提供できる場面が生涯学習センターであろうと考えている。公民館活動の場合は、ある程度、組織的にフォーマル的な形でなされる、そういう学習の場の提供だろうと思う。インフォーマルな学習に対してどうするのか。そういうのを見るのが生涯学習センターである。半分屁理屈みたいなことなのであるが、そんなことをいろいろ考えてみた。したがって、生涯学習センターの位置づけとしては、すべての市民を対象と

して、しかも、学校教育も含めて、地域社会におけるあらゆる学習の場というか、機会というか、チャンスを見つけ出して、市民の学習活動を結びつけていく、そういう機能を持たせたほうがいいのではないかと、これは少し抽象的であるか、そんなふうにイメージしてみた。行政の方々は現在おやりになっていることを、再確認させていただいたと思うが、例えば学習情報の提供とか、学習者のための相談体制を整理していただくとか、あるいは各種施設がいろいろあるが、関係する行政機関への連絡や調整を図っていただける、そういう体制をもう少し強化、整備していただくのが行政にお願いしたいことかなと。少し抽象的であるが、このように考えてみた。以上である。

（浦野委員）

私は市民レベルで少し考えてみたのであるが、先日、図書館協議会でもフォーラムを開いて、その経験からして、小金井市の市民の皆さんは、小金井市の図書館について話し合いたいとか、小金井市の社会教育、あるいは生涯教育について話し合いたいという気持ちはとても強く持っていらっしゃるのではないかと思うので、ぜひ、まず小金井市の生涯学習について市民レベルで語り合える場を提供するべきではないかと、そこから、みんなが力を合わせて向かっていく目標が見えてくるのではないかというのを先日のフォーラムで非常に感じたところである。であるから、まず語り合えるような場所をつくるということ。あとブロック会議で出たのだが、社会教育委員の健全育成の会議に参加することが大切ではないかということなのである。健全育成の会議に私も出ているが、社会教育委員の立場ではないので社会教育委員としての意見は言えないが、やはりそこでは、ここにもあったが、障害をお持ちの方、年配の方、いろいろな方への話題が出てまいるので、そこに社会教育という意見も反映させたり、あるいはそこから得た、拾える情報もあるので、そういったものの場に積極的に入れていくことが必要ではないかと思う。また、いろいろな社会教育な施設がたくさん小金井市にもあるが、そこを結ぶＣｏＣｏバスみたいな交通機関が南北にはあるが、そこを意識した運用にはなっていないと思うので、図書館を使った人が公民館に行く、公民館を使った人が違うところに行くという、人が動けば、その人が持っている情報がまた動いていくし、そこで出会いがあれば、こんなことをやっているのか、もっと整理させてみんなに知ってもらったほうがいいという広がりがあると思う。

それと、それにも関係することであるが、子供の行事にかかわっていると、やはり春や秋は子供に関係する行事が非常にたくさんあって、学校の運動会もそうである、幼稚園もそうであるし、健全育成の集りもそうであるし、子供のために皆さんが一生懸命やっているのだが、あまりにも重なってしまって子供が来てくれないという現実もあるので、いつ、どこで、何をやっているかというのを知るシステムがあってもいいのではないかと思う。この４点を今書き出させていただいた。以上である。

（倉持委員）

私は皆さんのように小金井市での市民活動経験がないので、やってみたら抽象的なものしか出なかった。その中でも、皆さんの議論を聞いていて、他市とか他区とのか

かわりが、多少、いろいろな委員や研修等でお話を聞く機会があるので、そういうのと少し引きつけて考えたのだが、１つは情報ということで今回は課題があるように思ったので、例えばもう少し広く生涯学習について情報が得られる広報誌のようなもの、他市や他区だと、例えばもう少しボリュームもあって、カラーでというものもあれば、図書館、公民館、博物館、あるいは市民活動なんかも含めた情報紙、広報誌なんかもあったりするし、それぞれその市の特徴性があると思うので、簡単にはいかないかもしれないが、それを取り払って考えると非常に安くて見やすくて、だれもが手にとりやすいような、生涯学習の情報が広く得られる広報誌が読めれば、あってもいいのかなと思った。それから情報ということでいうと、広報誌に限らず、生涯学習の情報提供が一元的にできるような何らかの機能があってもいいのではないかと思う。他市、他区では、生涯学習情報を１つのホームページや、あるいはネット上でアクセスできるというような、情報交換ができる掲示板があったりするのだが、若い方はそれでもいいかもしれないが、年配の方はそういうわけにもいかないので掲示板などの活用というふうにもなるのかもしれないと思った。あと、もう一つ情報でいえば、気軽に学習相談できる場所や人があってもいいと思った。これから地域で活動してみたい、今はしていないが、これからしてみたいという方もたくさんいらっしゃると思うし、既に活動されている、さっきお話もあったが、活動されている人にとっても、さらに発展させていきたいというときには、専門的に学習相談できる場や人がいるといいのではないかと思った。それから既に活動している団体が小金井市では豊かな蓄積があって、非常に活発であるのは大きな特徴だと思うが、一方でそれぞれが個別に活動しているという状況がある。団体間が交流できる機会があったほうがいいと思うし、団体の蓄積してきた経験や成果を地域に生かす仕組みが、どういう仕組みがいいかというのはまだ抽象的なのだが、あったらいいと思った。あるいは、団体間の連絡、調整、交流を促すためには、そこをつなぐコーディネーターの役割が非常に重要になってくると思って、それはやや専従的にやる必要があるとも思う。そういう専門性や実践力のある人が配置されるというのも重要なのかと思った。

（本川議長）

　市が持っている情報を集約することはできるかということを１つ聞かせていただきたいと思っている。それから、市民からの苦情がいろいろあると思うが、その中で生涯学習に関するようなことの分析はできているかということをお伺いさせていただく。いろいろあるが、やはり重なるのである。生涯学習にかかわるすべての情報を共有できる場所、ものが必要かなと思っている。それから有料でもいいから部屋があるといいというのがある。そんなことを。あと、この紙を私はできれば分析して分けていただけるといいと思う。そういう仕事を倉持委員にお願いしてはいけないか。

（倉持委員）

　その代案ではないが、それをまとめて打って少し類似するのを整理するぐらいならやるが、これはやはり、今話していたのだが、私たちが今これを検討していくための

たたき台として、これまで整理もされているし、１０年前のものであるので、そこから発展している部分もあると思うが、要は素材としては何もないところから始めるよりはいいと思っている。これはこんなボリュームだが、全員分印刷していただき、次回の会議までに皆さんに読んできていただくのはどうかという提案と、プラス、先ほど部長さんより、ここから既に実現されているものもあり、あるいは他の町会で進められていることもあり、あるいは逆にこんなの難しいなという、あるいは先ほど言ったようにもっとこういう提案があれば進めていくことができるという、行政側から見た指摘ポイントがあると思う。そこら辺を少し、指摘ポイントというか、ここは終わってきているとか、ここはちょっとわからないとか、これは無理とか、そういうことも教えていただくと、私たちがむやみやたらに議論しなくてもいいというふうにも思う。あっちにもこっちにも宿題をもらった分皆さんにも返すが、それぞれの宿題として持ち帰ることはいかがかという提案だったのだが、いかがか。

（事務局）

全員分印刷し準備する。

（２）その他

（本川議長）

三者懇では今のようなことを踏まえて、どんなプランになるかわからない。公民館とか図書館とか、いろいろな方のほうのお話もあるのでどうなるかわからないが、社会教育としてはこういう方向を考えているということを申し上げさせていただこうと思っている。

やり方であるが、前回のような、武蔵野さんのもいらしていると思うが、なるべく自由に話せる場所があったほうがやりやすいかなというのを感じているので、少しお任せいただければと思う。三者懇はいろいろなご都合があるかもかもしれないが、今回は１０日も委員会になるので、よろしく出席のほうお願いする。

（渡辺生涯学習部長）

当日は議会が入ってしまいまして、管理職が全員欠席である。かわりに係長職が対応するということでご理解いただきたいと思う。

以上